

大阪城トライアスロン 2025（エイジ）ローカルルール

大阪城トライアスロン 2025 運営競技部

本大会は「日本トライアスロン連合（JTU）競技規則」に加え「大阪城トライアスロン 2025（エイジ）ローカルルール」（本ルール）に準拠して競技を行う。

[大会運営全般]

1. 競技中であっても、緊急車両の通行を最優先する。緊急車両が通行する際には、警察官・審判員（以下 TO）・警備員の指示に従い、必要に応じて徐行または停止すること。
2. 選手は、事前に送付する理解度チェックテストを受験して、合格しなければならない。テストを未受験、または不合格の状態で大会に出場することは認めない。仮に出場が認められた場合でも、記録は出ない。
3. 定められた受付時間に理由無く遅刻した選手は、大会に出場できない。
4. 大会当日のプログラム変更告知は、大会本部前の提示、および会場でのアナウンスなどで行う。選手は各自の責任で変更事項について注意を払わなければならない。
5. 競技時間を超過した場合、または競技時間内であっても TO・係員・ライフセーバーの判断により、以後の競技続行が不可能と判断した選手に対しては、審判長（以下 HR）の判断によって競技の終了を宣告することがある。
6. 大会は雨天決行とする。ただし気象によって選手の安全確保が困難と判断される場合、または競技の実施に大きく影響を与える場合は、コース・競技の内容を変更、または中止することがある。

[競技全般]

1. 選手は各自でボディーナンバーを貼付のうえ、競技に参加すること。貼付する場所は、両腕外側の計 2 か所を基本とする。
2. フロントファスナーのレースウェア着用を認めるが、競技中はファスナーを 40cm 以上開けることを認めない。

3. レースナンバーは、バイク競技時に後方から、ラン競技時に前方から番号が見えるよう装着すること。1枚のレースナンバーを競技によって前後に移動することを認める。
4. レースナンバーが破ける、または外れた場合、TO が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば競技の続行を認める。
5. 選手は自己の責任においてバイク・ランコースの周回数をカウントすること。
6. 各競技において、周回不足・ショートカット・折返し地点の間違いなどによって、規定の競技距離をカバーしていない選手は失格（DSQ）とする。
7. 競技中の選手によるイヤホン・スマートフォン・カメラなどの機器の使用は禁止する。

[ペナルティー]

1. JTU 競技規則およびローカルルールに違反する行為に対しては、ペナルティーを与える。
また他の選手・TO・係員への不適切な言動も、ペナルティーの対象とする。
2. ペナルティーの種類は以下の通り。
 - ① 指導
 - ② タイムペナルティー
 - ③ ストップ・アンド・ゴー（一時停止と違反の是正）
 - ④ 失格（DSQ）
 - ⑤ 競技からの除外（違反があったその場で競技終了を宣告）
3. タイムペナルティーは以下の通り。
 - ① ドラフトィング違反 スタンダード：1分 スプリント・リレー：30秒
 - ② その他の違反 スタンダード：15秒 スプリント・リレー：10秒
4. タイムペナルティーを課された選手は、ラン競技中にペナルティーボードに掲示された番号を確認して、自らペナルティーボックスに入らなければならない。入らずにレースが終了した場合は、当該選手を失格（DSQ）とする。なお TO からの告知や誘導は行わない。
5. 失格（DSQ）は、危険行為およびスポーツマン精神に反する行為があった場合、競技からの除外は、さらに重大な行為に適用される。これらペナルティーの適用は、HR の裁量によって決定する。

[エイドステーション]

1. エイドステーションはスイムスタートエリアに1カ所、ランコース上に1カ所設置する。
各エイドで提供するのは水のみで、それ以外の飲料などの提供は行わない。
2. エイドステーションで提供する紙カップは、必ず所定のゴミ箱に捨てること。公園内のコース上・公道への投げ捨ては厳禁であり、違反者はタイムペナルティーの対象とする。

[スイム競技]

1. 選手は入水チェック終了の時間までにスタートエリアに入らなければならない。また、一度スタートエリアに入った選手は、スイム競技が終了するまで出ることができない。
2. JTU 競技規則（第 67 条）に定められたウェットスーツ（上下とも）の着用を義務とし、水着やトライアスロンウェアだけでの参加は認めない。
3. スイムキャップは、大会が支給したものを着用しなければならない。
4. スタートは各ウェーブ内のグループごとに、2 分間隔での一斉スタートとする。
5. スイム競技を棄権（スキップ）して、バイクとラン競技だけを行なうことができる。
ただし記録は出ない。（SKIP）。スキップを希望する選手はスイム競技のスタート前までに、TO に申告すること。スタート後の申告は受け付けない。
6. リレー競技ではスイム選手が途中棄権または時間超過の場合でも、バイク競技から選手のスタートを認める。ただし記録は出ない（SKIP）。
7. レスクチューブの着用を認める。ただし競技中にチューブを使用した時点でライフセーバーによる救助を行い、競技終了（DNF）とする。
8. 大会で用意する風船を、目印として装着することを認める。

[トランジション]

1. 各カテゴリーで定められたトランジションエリア（以下エリア）解放時間以外は、選手によるエリア内での競技備品のセッティングなどの作業を認めない。エリア閉鎖時間に遅れた選手、および閉鎖後に作業をしている選手は、失格となる場合がある。
2. エリア内への選手以外（コーチ・家族・関係者など）の立ち入りを禁止する。

3. エリア内に持ち込めるのは競技に最低限必要な備品のみとし、その他の荷物（キャリーバッグ・ボストンバッグ・大型クーラーボックス・備品カゴなど）の持ち込みは認めない。
4. 競技備品は他の選手を妨害しないように、各自のスペース内に設置しなければならない。TO は公平な競技運営のため、選手の備品を移動することができる。
5. ラックにウエットスーツ・タオルなどを掛ける行為はマーキングとみなし、TO はこれらを移動することができる。
6. バイクをラックに掛ける時は、常に自分のラックナンバーが見える側にハンドルバーが来るようにサドルを掛けること。向きを逆にした場合は、他の選手への妨害行為とみなし、是正を求める。
7. ヘルメットは、必ずストラップを外した状態でセッティングすること。ラックからバイクを取り出す前にヘルメットをかぶってストラップを締め、バイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
8. ヘルメットのストラップは、ゆるみが無い状態で装着すること。TO が不適切と判断した場合は、競技中であっても一時停止を求める。
9. 乗車・降車エリアでは、乗車ラインを超えて足を 1 歩以上ついてから乗車し、降車ライン手前で足を 1 歩以上ついてから降車すること。違反はタイムペナルティの対象となる。
10. 競技終了後のバイクの回収は選手本人が定められた時間に来場し、レースナンバーまたはボディーナンバーを、出入口で係員に提示すること。

[バイク競技]

1. 前日および当日のバイクのチェックと預託は行わないため、各自の責任においてバイクの整備・保管を行うこと。
2. JTU 競技規則に従ったトライアスロン専用バイク・ロードレーサーのみ出場を認める。クロスバイク・マウンテンバイク・ピストバイク・ミニベロなどによる参加は認めない。リレー競技のみクロスバイクによる出場を認めるが、ハンドル幅は 50cm 以下とし、バー エンドグリップの装着は禁止する。
3. エアロバー（DH バー）・ディスクホイール（後輪のみ）の使用を認める。

4. ライト・スタンド・ベル・カメラなど、競技に不必要的機器を取り外していないバイク、ハンドルバーの末端が確実に塞がれていないバイクは参加を認めない。サイクルコンピューターの装着を認めるが、スマートフォンの装着は禁止する。
5. バイクコース上にエイドの設置が無いため、バイク専用のボトルによる給水を推奨する。ただし、ペットボトルの使用は禁止する。
6. 以下の区間では追い越し・追い抜きを禁止する。
 - ① 大阪城公園内の全コース
 - ② 全ての折返し地点の 50m 手前から および折返し（U ターン）ゾーン内
 - ③ 玉造筋から公園内に戻る駐車場入口の 50m 手前から
7. 本大会ではドラフトティング走行を禁止する。ドラフトゾーンは前方選手の前輪先端から後方 12m とし、追い抜きのためにゾーン内に滞在できる時間は 25 秒以下とする。

[ラン競技]

1. ランコースでは常に右側走行とする。
2. 安全上、裸足またはランニングに適さない履きものによる参加は認めない。

[フィニッシュ]

1. 本人確認のため、レースナンバーが見えるよう前面に装着すること。サングラスを外すことを推奨する。本大会は安全上の理由により、同伴フィニッシュを認めない。
2. フィニッシュ後は TO・係員の指示に従ってアンクルバンドを外し、所定の場所に返却すること。

[制限時間]

1. 各カテゴリーの競技制限時間は以下の通り（スイムスタート時間から）。これらの制限時間を超過した選手に対しては、競技の終了を宣告する。

<スタンダード>

スイム：1周目 25 分 2周回 45 分 バイク：2 時間 30 分 ラン：3 時間 40 分

<スプリント・リレー>

スイム：30 分 バイク：1 時間 25 分 ラン：2 時間 05 分

2. 最終ウェーブのみ、バイク周回の最終関門をバイク競技制限時間の 15 分前に設定する。設定された時間以降、公園外のバイクコース上の選手はその場で競技終了(DNF)となる。
3. バイク・ランで競技終了を宣告された選手は、速やかにコース外に出て T0 にアンクルバンドを返却し、その指示に従うこと。

[抗議]

1. 選手は HR の判定およびその他の事項に関して不服がある場合、抗議を行うことができる。ただし、以下の事項に関する抗議は受け入れない。
 - ① ドラフティングおよび走路妨害（ブロッキング）。
 - ② 暴言・暴力など、スポーツマン精神に反する行為。
2. 抗議を行う場合は審議委員会に対して行う。本大会の審議委員会は、主催者代表・技術代表・大阪府トライアスロン協会理事により組織される。
3. その他の細則は JTU 競技規則に基づく。

競技規則についての問い合わせ先

大阪城トライアスロン 2025 競技運営部 tech@optan.jp